

第六四四回 大槻能楽堂自主公演 能 研究公演

平成30年

原作

養老

齊藤 信隆
多久島利之

2/3

(土) 午後2時開演



トークセッション

[1]「護法型」をめぐるって
[2]原作「養老」を観て

天野 文雄 / 大谷 節子 / 大槻 文藏

<初めてご覧になる方にもわかりやすい解説を、また英文解説もご用意しています>

無形文化遺産
NOH KYOGEN
能楽

大槻能楽堂

〒540-0005 大阪府中央区上町A-7

チケット・お問い合わせは TEL.06-6761-8055 <http://www.noh-kyogen.com>

©主催:公益財団法人大槻能楽堂 ©後援:大阪府/大阪市/大阪府教育委員会/大阪市教育委員会/公益財団法人関西・大阪21世紀協会



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)

第六四四回 大槻能楽堂自主公演能 研究公演 原作 養老

平成30年 2月3日(土)
午後2時開演(午後1時30分開場)



トークセッション①「護法型」をめぐって
大谷 節子 天野 文雄

「護法型」再考

「護法型(ごぼうがた、ごおうがた)」とは、前半の主役が退場せず後半まで残り、そこに後半の主役が登場する形の能のことです。観世流と金春流にある『室君』でいえば、前半の主役である室津の遊女(現在はツレ)が室明神の神前で舟唄を唄い(クセ)、さらに〈神楽〉を舞ったあと、退場(中入)せずにいると、そこに後半の主役、韋提希夫人いだいけふにんが現われ、〈中ノ舞〉を舞って、室明神を中心にした室津の浦が極楽浄土さながらのようなたたずまいとなります。どちらがシテなのかいささか迷うところですが、このような形の能を「護法型」と呼んでいます。前半の主役が退場しないので、アイも出ません。廃曲『護法』(『名取老女』『名取姫』とも。平成5年に復曲)がこの形なので、昭和35年の岩波の『謡曲集』あたりから、故横道万里雄氏がこの形の能を「護法型」と呼ぶようになり、いまでは能の類型用語として定着しています。

もともと、この「護法型」の能は、現行曲では『室君』、復曲では『護法』『維盛』『池贄』があるくらいです。すると、「護法型」の能はあまり制作されなかったと思われるのですが、そうではありません。「護法型」の能が少ないのは、本来は「護法型」として作られた能が、やがて前半の主役が退場して、同じ役者が後半の主役として登場するという前後二場からなる複式の形に改編された結果だと思われるからです。そこには当然、アイも登場します。その代表的な能が『昭君』や『鶉飼』で、『朝長』『藤戸』『初雪』なども、本来は「護法型」だったと考えられます。そして、今回「原作『養老』」として上演される世阿弥作の『養老』も、まず確実に「護法型」として作られた能と考えられています。

このたびの研究公演では、現在は複式能として演じられている『養老』を本来の「護法型」の能として初演し、トークセッションでは、そもそも本来「護法型」だった能がどれくらいあって、それが複式能に改編されるようになった理由や時期などを話題にして、舞台と研究の両面から、長い歴史をもつ能の「変化」について考えてみたいと思います。

(天野文雄・大谷節子)

あらすじ

雄略天皇の御代、美濃国本巢郡に、不思議な力を持つ泉が湧いた。急ぎ見て参れとの宣旨により勅使が訪れると、奇しくも、泉を発見した樵(きこり)の親子が通りかかる。勅使に尋ねられて親子が語るには、息子が薪採りに入った山中でこの泉の水を飲んだところ、すっかり疲労回復したので、家に帰って両親にも飲ませると、たちまち元気になった。そこで、老を養うゆえに養老の滝と名づけたのだという。奇特を目の当たりにした勅使が感激していると、空が明るくなり、滝の音は澄みわたり音楽が聞こえ、虚空に花が降ってくる。楊柳観音たるこの山の神が来臨したのだ——。(石淵文恵)

休憩

能 原作 養老

Noh YOUROU

前シテ	樵翁	齊藤	信隆
後シテ	山神	多久	島利之
ツレ	樵夫	齊藤	信輔
ワキ	勅使	福王	知登
ワキツレ	従者	喜多	雅人
ワキツレ	従者	是川	正彦

笛		竹市	学祐
小鼓		清水	皓之
大鼓		河村	真介
太鼓		上田	悟

後見		大槻	文藏
		赤松	友

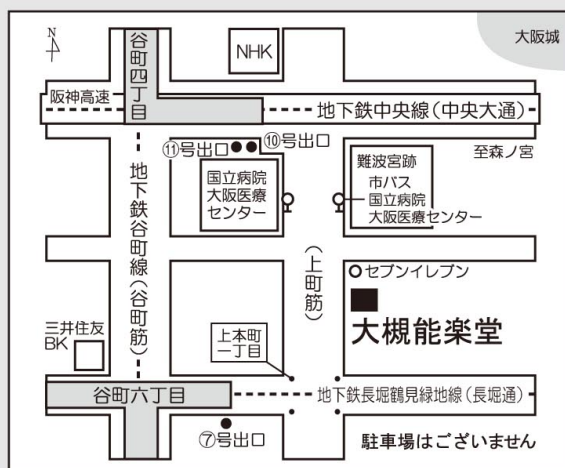
地謡		上田	拓司
		山野	雄三
		山本	博通
		山本	正人
		寺澤	幸祐
		武富	康裕
		大槻	一悟
		水田	雄

トークセッション② 原作『養老』を観て
大谷 節子 天野 文雄 大槻 文藏

会場 **大槻能楽堂**
大阪市中央区上町A-7

- 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、⑩号出口を出て南へ約300m。(⑩号出口にエレベーター有り)
- 又は谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車、⑦号出口を出て北へ約350m。(⑦号出口にエレベーター有り)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※大阪駅から62号系統「住吉車庫前」行乗車。
※「あべの橋」(天王寺)から62号系統「大阪駅前」行乗車。

本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録音は、著作権・肖像権に触れますのでご遠慮いただきますようお願いいたします。



入場券発売所

■大槻能楽堂事務局・大槻能楽堂ホームページ

●ローソンチケット Lコード: 56501

URL l-tike.com TEL 0570-084-005

入場料金のご案内

自由席 ●前売: 一般5,400円・学生席2,700円
●当日: 一般5,900円・学生席3,100円
※U-25(25歳以下学生) 立ち見800円

ワンコインでマイシート ●座席指定料: 500円

※自由席券・当日券でご入場の場合は、立ち見でのご案内となる場合もございます。ご了承ください。
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。